

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算      支出科目 款：商工費    項：商工費    目：工鉦業振興費

事業名 教授・学生への県内企業魅力体験PR事業費（R8分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

商工労働部    産業人材課    人材企画係    電話番号：058-272-1111(内3683)

E-mail：c11369@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額                      4,248 千円    （現計予算額：                      0 千円）

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	4,248	2,124	0	0	0	0	0	0	2,124
決定額	4,248	2,124	0	0	0	0	0	0	2,124

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

県内中小企業にとって人材の確保は喫緊の課題となっている。若者については、大学進学者の約 8 割が県外の大学に進学する反面、県内大学への進学者の約 6 割を県外からの進学者が占めている。

こうした現状を踏まえて、県外へ進学した学生の呼び戻しと、県内大学を卒業する若者の県内定着の両面から施策を展開し、県内企業への就職につなげていくことが必要である。

（2）事業内容

岐阜大学工学部や地域協学センターと連携し、県内企業の経営者や技術リーダーによる講義や、学生・教員が企業を訪問して行う現地実習などを、大学の単位が取得できる正規の授業として実施することで、学生のみならず、引率する教員に対しても県内企業の魅力のPRを行う。

＜実施内容＞

- 企業での現地実習を通じた企業の課題解決、共同研究等の実施。  
実習受入企業へは、借上バスにより大学から送迎。
- 成果発表会の開催（参加者：学生・教授、企業の方 約 200 名を想定）
- 学生の企業訪問及び若手社員へのインタビュー、レポート作成の実施。

### （３）県負担・補助率の考え方

岐阜大学工学部や地域協学センターと連携し、県内企業の経営者や技術リーダーによる講義や、学生・教員が企業を訪問して行う現地実習などを、大学の単位が取得できる正規の授業として実施することで、学生のみならず、引率する教員に対しても県内企業の魅力のPRを行う。

#### ＜実施内容＞

- 企業での現地実習を通じた企業の課題解決、共同研究等の実施。  
実習受入企業へは、借上バスにより大学から送迎。
- 成果発表会の開催（参加者：学生・教授、企業の方 約200名を想定）
- 学生の企業訪問及び若手社員へのインタビュー、レポート作成の実施。

### （４）類似事業の有無

他県において類似事業なし

## ３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	4,248	人件費：432千円 講師、職員旅費：157千円 需用費（消耗品費、印刷製本費）：563千円 役務費（通信運搬費、印刷費等）：96千円 委託費：300千円 使用料（会場借上費、バス借上料）：2,700千円
合計	4,248	

### 決定額の考え方

## ４ 参 考 事 項

### （１）事業主体及びその妥当性

学生に直接県内企業の魅力をPRし、授業の一環として実施するため、事業主体は大学であることが必要

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内企業への就職を促進するため、岐阜大学を中心に、県内外の大学生及び教授の県内企業に対する理解を深める。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①参加学生数		174	200	200		87.0%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>参加学生数：工学部152人（企業実習）、地域科学部等30人（企業取材）  受入企業：15社（企業実習）、10社（企業取材）  実施内容：9月から現地実習を開始。1月末に成果発表会開催。また、学内共通授業の一環として、学生が企業を取材し、紹介冊子を作成。  ＜成果＞  取材の企業は10社に増枠。引き続き、県内企業と大学のつながりを強化するとともに、教授、学生の県内企業への理解を深めることができた。</p>
令和5年度	<p>参加学生数：工学部140人（企業実習）、地域科学部等29人（企業取材）  受入企業：14社（企業実習）、10社（企業取材）  実施内容：9月から現地実習を開始。2月に成果発表会を開催。また、学内共通授業の一環として、学生が企業を取材し、紹介冊子を作成。  ＜成果＞  昨年度に引き続き、県内企業と大学のつながりを強化するとともに、教授、学生の県内企業への理解を深めることができた。</p> <p>指標① 目標：200 実績：169 達成率：84.5 %</p>
令和6年度	<p>参加学生数：工学部140人（企業実習）、地域科学部等34人（企業取材）  受入企業：10社（企業実習）、10社（企業取材）  実施内容：9月から現地実習を開始。2月に成果発表会を開催。また、学内共通授業の一環として、学生が企業を取材し、紹介冊子を作成。  ＜成果＞  昨年度に比較し、参加学生が増加した。県内企業と大学のつながりを強化するとともに、教授、学生の県内企業への理解を深めることができた。</p> <p>指標① 目標：200 実績：174 達成率：87 %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県外へ進学した学生の呼び戻しと、県内大学を卒業する若者の県内定着の両面から施策を展開し、県内企業への就職につなげていくことが必要
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	全国的にも例のない取組みであり、直接現場で企業の課題解決に取り組むことから、教授、学生の県内企業に対する理解を深めるのに非常に有効。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	受入企業と担当教員とで授業カリキュラムの綿密な打合せを実施し、授業効果を高めるよう努めている。また、バスの送迎を効率的に行うことで、経費の削減に努めている。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 実習を受け入れる企業分野の拡大を図るとともに、企業の課題、ニーズに合わせて学生の実習を進め、より多くの学生が参加する仕組みにしていく必要がある。
--

### (次年度の方角性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 県内企業のニーズを把握しつつ、岐阜大学内の他の学部への展開、更には県内外の大学への展開を検討していく。
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	
--	--